

国語プリント No. ()

年 組 番 名 前

配布日 月 日 曜

山月記 李徴の性格分析

李徴はどんな人物のタイプに分類されるか考えてみよう。心理学での性格分類は様々あるが、今回はユング（1875～1961 スイスの精神科医。分析心理学の創始者。）の性格分析に当てはめてみよう。
【課題】
P20 L8をグループ。読みした後、李徴の人となりを判断し、【分類A】・【分類B】から一つずつ選んで何タイプかを考える。選んだタイプは、今後作品を読み進めていく上で、ぴったりあてはまるか検証していく。

分類A

I 外向的	周囲の環境に対して非常に自然に振舞ってて自由な感覚を与えるが、しかし、その人自身の存在が感じられない。周りに合わせる事が主たる目的となっている。
II 内向的	周囲の人やモノよりも、自分中心に注意が回ってる。周囲にそぐわないので、どこか不自然で窮屈な感じを与える。

分類B

合理的		① 思考タイプ	客観的に論理的思考に基づいて考える。
		② 感情タイプ	主観的に好きか嫌いかを自分の感情に基づいて考える。
非合理的		③ 感覚タイプ	感覚（五感……視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚）に基づいて決める。
		④ 直感タイプ	その時のひらめき（第六感）に基づいて決める。

つまり、【分類A】と【分類B】のそれぞれを組み合わせると、八種類（I ①～II ④）のタイプが存在する。（参考 <http://www12.ocn.ne.jp/~yukine/chara/type2.html>）

さて、李徴はどのタイプになるか考えてみよう。

分類	○を付ける	そうだと判断できる表現を教科書から抜き出す。
A	I 外向的 II 内向的	
B	① 思考タイプ ② 感情タイプ ③ 感覚タイプ ④ 直感タイプ	

タイプ別性格分析

I ①外向的思考	このタイプは客観的で、合理的な考えの持ち主で、リーダーシップをとる。その分、客観的な知性の結論を大事にするあまり、感情を抑圧しがち。(感情面において未発達) また客観的事実を基に作られた思考形態にある程度の幅を持たせることができる人なら社会において有能さを発揮する可能性を持つが、それが狭量なものであった場合は独りよがりになりがちである。(※参考に一”くすびきである”くねばならない”型)
II ①内向的思考	その場の雰囲気やメンバーの思惑に関係なく、独創的な発想をするが、自己中心的に陥りやすい。
I ②外向的感情	このタイプは適応性と柔軟性によって、周囲からの評価を得られやすい。一見、自己本位の行動が多いが他人と調和する意見に落ち着くことが多い。(意見に主体性が見られない) 自分の中にある主観の本質より合理的欲求を自然に求める傾向にある。そこには感情の過程のみが存在し、感情の主体となるものが存在しない。以上のことから感情の変化につられ”気まぐれ”ヒステリー”といった傾向に陥りがちである。(※参考に一”そうでありたい型)
II ②内向的感情	見た目がおとなしい反面、内面に豊かな感情を秘めていることが多い。一見、冷徹無表情のように見えるが、内面は繊細な感情を持っている。一方、その感情を表に表現することが極端に下手である。
I ③外向的直感	このタイプは安定した状況下よりも、常に新しい状況(対象、方法)を求める傾向にある。外的な客体に興味を持ち(注一客体に興味を持つのはあくまでそれが新しいステップへの鍵となる場合のみであり、しかも一時的なものである。)、そこから自分独自の可能性や価値観を見い出すことにこだわり、またそういったことが非常に上手である。実業家、政治家(注一昨今の政治家は除く?)などに多くみられるタイプでもある。このことは他人に対しても同様で、周囲の人に新しいことに向かう勇気を与える。行き過ぎてしまうと自分自身に疲弊と空虚さをもたらすこともある。(行きつく所、自分にふさわしくない異性にひかれたり、見込みのない対象に縛られるといった面を持つ*参考に一”ひらめき型)
II ③内向的直感	独特のひらめきの持ち主で、外界の価値には関心を持たず自分の内界の価値にこだわり続ける。夢想家(予見者+芸術家)に多く見られるタイプ。夢想家タイプは直感するだけに留まるが、芸術家タイプは知覚したものに形を与えることが可能。また、客体の感覚を抑圧し端から見れば”かすみ”を食べて生きているようにも見える。
I ④外向的感覚	発達している五感を駆使して、常に現実とかかわりをもとうとする適応的なリアリストで享樂者でもある。このタイプの人にとって感覚とは具体的な性や現実の生命感を意図する。常識的な範囲でいられれば、陽気で気さくである。一方外向的感覚が発展し、客体に対し感覚的にとらわれてしまうと感覚がコントロールできず粗野な面(十嫉妬妄想、不安感、強迫観念)が表れる。(注一この場合、理性よりも感情によった方法が有効的である…) (*参考に一”快楽取り入れ型)
II ④内向的感覚	このタイプの人は客体(の表面)よりもその背景にあるものを見ようとする傾向にある。(直接、客体自身とは関係を持たないということ) すぐれた表現能力を持つていれば芸術家などの分野で才能を表すが、一般的には落ち着いた受動性、理性的な自己抑制が働き平凡な現実と自閉的な生活に満ち足りた日々を過ごすことが多い。